

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 879 号	氏名	安武 宗徳
学位審査委員		主査	朝比奈 泉
		副査	原 宜興
		副査	渡邊 郁哉
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は歯科インプラント治療において荷重とインプラントデザインに着目し、組織形態学的解析ならびに 3 次元的構造解析によりインプラント周囲の骨形成を明らかにしようとしたもので、その目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 インプラントのネック部に<math>-60^{\circ}</math>もしくは<math>+60^{\circ}</math>のグループを付与した 2 種類のチタン合金製インプラントを日本白色種家兎の両側脛骨近位端に埋入し、埋入 12 週後に非荷重群と荷重群にランダムに振り分け、荷重開始 8 週後に屠殺し、組織標本を用いた組織形態学的解析ならびにマイクロ CT を用いた 3 次元的構造解析を行っている。得られたデータを用いて種々の解析を行い、インプラントデザインの違いと荷重の有無による骨形成効果について分析を行っており、その手法は適切である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、非荷重下のインプラントにおいてインプラントデザインの違いは周囲骨形成に影響を及ぼさないこと、荷重下のインプラントにおいては<math>-60^{\circ}</math>グループより<math>+60^{\circ}</math>グループを付与したインプラントの方が周囲骨形成に有利であるとの考察が示されている。これらの研究結果と考察内容は高く評価でき、今後の研究の展開が大いに期待できる。</p> <p>以上のように、本論文は口腔インプラント学の研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（歯学）の学位に値するものと判断した。</p>			